

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
甲府市	中道上九一色地域 (下向山町)	令和4年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	33.6ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	26.5ha
③地区内における80才以上の農業者の耕作面積の合計	1.2ha
うち後継者が居ない農業者の耕作面積の合計	0.9ha
④地区内において今後耕作できなくなる可能性のある耕作面積の合計	4.5ha
⑤地区内において今後中心経営体等が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.2ha
(備考)	

2 対象地区の課題

(1) 農業者の高齢化による離農や規模縮小、後継者の不在により、農地の出し手は増加しているが、農地の受け手が少ないため、耕作放棄地が増加傾向にある。
(2) 急傾斜のため、農業機械が入らないなど、耕作条件が不利な農地が多く、耕作放棄地が増える要因となっている。
(3) 鳥獣被害が多発しており、営農意欲の低下につながっている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化及び今後の方針

(1) 農地の受け手が不足しているため、地域内に限らず、地域外から新規就農者等呼び込み、農地の受け手を確保していく。
(2) 新規就農者の育成やサポートを地域一体となってい、今後の地域農業を担っていく中心経営体となるような人材の育成を図っていく。
(3) 中心経営体に農地集積が行えるよう、地域で農地集積を行える体制を整え、効率性が高い農業経営ができるよう面的な農地を確保し、中心経営体が今後の地域農業を牽引できるよう支援していく。

(4) 農業委員や農地利用最適化推進委員と連携し、地域で農地情報を共有することで、農地の出し手と受け手を明確化しながら、農地銀行制度や農地中間管理機構を活用することで、農地の集積を促進する。

(5) 獣害被害が拡大し、農業収入の減少や営農意欲の低下が懸念されることから、管理捕獲の取組みと併せて、捕獲機材の導入や獣害防止柵の整備を進める必要がある。

今後の地域の中心となる経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向	
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積
認就	農業者A	果樹、野菜	0.3 ha	果樹、野菜	0.5 ha
認就	農業者B	果樹、野菜	0.5 ha	果樹、野菜	1.5 ha
合計	2人		0.8 ha		2 ha